

基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	幅広い分野で、国際的貢献や政策支援につながる研究が進展しており、先見的・政策対応型研究および知的研究基盤整備がバランスよく推進されている。ELVOC の世界初検出や資源フロー可視化、長期モニタリングなど、学術的・政策的に価値の高い成果が着実に創出されている。	各分野で実施されている基礎・基盤的取組の成果を評価いただきどうもありがとうございます。今後もモニタリングの継続等を着実に実施し、基礎・基盤的研究を推進していく所存です。
	廃棄物処理や PFAS 対策、大気汚染発生源推定などの研究成果を、今後どのように政策や社会実装へ具体的に結び付けていくか。	廃棄物処理に関しては、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルに向かない低位の廃棄物類の効率的なエネルギー回収を行う方法として産業における蒸気利用が本研究によって有効な方法の1つと考えています。この結果をもとに化学コンビナートのような大きな熱需要を持つ産業団地に隣接した焼却・蒸気供給施設を設置するのが効率的であることを発信していきます。また、このような考えを実装するためのたたき台として本研究で抽出した多目的最適化のパレート最適解を議論の代替案として、今後予定している LCCN の協議に使用していく予定です。大気汚染物質に関して、本計算結果を踏まえ、「全球・半球規模のシミュレーションによる国外からの影響の把握」が、環境省が策定した微小粒子状物質・光化学オキシダント対策ワーキングプランに含まれています。本プランの実行のための検討会などを通して、要因の特定や結果の検証を進めてまいります。
今後への期待など	グローバルサウスを含む国際的視点での資源循環・脱炭素研究や、資源フロー・環境リスクの可視化研究のさらなる発展が期待される。	研究成果を評価いただきありがとうございます。資源の流れをわかりやすい形で可視化する研究は、今後も基盤的取り組みとして進めてまいります。また、現状、米国からグローバルサウス諸国への鉄鋼材輸出は限定的ですが、特に米国で強まっている資源ナショナリズム・保護主義が世界各国に波及した場合、資源循環と

		<p>脱炭素の達成はますます困難になることが予測されます。今後はこのような影響をモニタリングできるよう、継続的な研究を進めてまいります。</p> <p>また、廃棄物処理に関して、インドおよびインドネシアの産業地において LCCN のコンセプトを実装するための協議・実地調査等も進めています。その他にも関心を持たれている国や地域はいくつかあります。日本国外を対象とした場合、交通条件が異なること、特に鉄道輸送や河川輸送が意味を持つようになること、国を越境する場合を計画するなど、研究対象としても国際問題の解決の面からも貢献できるものであると考えていますので、対応可能となるように改良を行い、地域に適用可能なフレームワークの構築と現地との意思決定を行うための協議の仕方を検討していきたいと考えています。</p>
	<p>長期モニタリングや基盤データ整備を継続しつつ、他機関との連携や統合解析を進め、メカニズム解明や対策提言につなげることを期待する。</p>	<p>今後も国立研究所としての役割を果たせるよう、国内外の期間とも連携し、メカニズム解明や政策提言、国際的プレゼンスの向上につながる研究に邁進してまいります。</p>
	<p>研究資源や人材に限られる中で、継続性を確保しつつ戦略的な研究推進と研究基盤維持を図ってほしい。</p>	<p>研究資源や人材に限られる中で、研究の継続性を確保しつつ戦略的に研究を推進することは重要な課題であると認識しています。本研究所では、中長期計画に基づく研究分野の重点化や研究基盤の共用化を進めるとともに、外部機関との連携や外部資金の活用を通じて研究体制の強化を図っています。また、若手研究者の育成や研究成果・技術の継承を進めることで、将来にわたる研究力の維持・強化に取り組んでいます。今後も、研究資源の効果的活用と人材育成を両立しながら、持続的な研究推進に努めてまいります。</p>

基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じて、先見的研究・政策対応研究・知的研究基盤の各領域で、基礎・基盤的取組が体系的かつ着実に推進され、国内外の政策・研究を支える成果が創出された。長期モニタリング、標準化、データベース整備、試料保存など、国環研ならではの知的研究基盤が安定的に維持・強化され、国際的にも重要な貢献を果たしている。	評価いただきありがとうございます。今後も今後も、先見的・先端的基礎研究や政策対応研究、長期モニタリングをはじめとする知的研究基盤の維持・強化を図り、科学的知見に基づく政策立案や社会実装への貢献に努めます。
	WBGT などの高解像度予測データの適切な利用方法や不確実性の伝達は課題である。	予測データの使い方はご指摘の通りだと思っております。様々なデータの開発者とデータの利用者とのコミュニケーションに関して、気候変動適応法の下で実施している支援業務の一環として精力的に取り組んでいきたいと考えております。
今後への期待など	長期モニタリングや試料・データアーカイブを維持し、将来の環境変化評価や政策形成に資する研究基盤として強化することを期待する。	地球環境モニタリングでは、事業として長期的な視点で取り組むことができる現行の体制を継続するためにも、一層の成果の発信を心がけたいと思います。アジア太平洋域で国環研が担うべき国際貢献を今後も意識いたします。 湖沼長期モニタリングでは、より効率の良いモニタリング手法の開発、収集した細胞を用いた環境研究への応用およびゲノム情報の付与などによる保存株の付加価値向上に努めてまいります。
	社会システム分野を中心に、温暖化の減速に関して、国内、国際的な合意と行動変容に効果的に繋がるよう、さらに研究を加速していただきたい。	次期中長期計画においては、分野横断研究 PG1 を中心に気候変動問題に加えて資源循環、自然再興も加えた研究に取り組む予定です。国際的な合意と行動変容に結びつくように研究成果の発信も行っていきたいと考えています。
	環境・リスク健康分野で、欧州のように、速やかな、環境基準などの法制化をより加速することを期待する。	ご期待をいただきまして、ありがとうございます。化審法では経産省、農取法では農水省との折衝があるほか、環境基準設定

		<p>では産業界とのネゴシエーションがあるなど、国内では法制化のハードルはなかなか厳しいところがありますが、各化学物質や影響ベースでのモニタリングデータを公表することで、社会へのインパクトを与え、それによって法制化や事業者の自主的取り組みが進むなど、欧州や米国など諸外国から学ぶことは学び、迅速な対応ができるようレギュラトリーサイエンス研究を進めていきます。</p>
--	--	---